

NO	問題文			正答	出題 ページ	配点																																																																													
	選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3																																																																																
1	次の文の (A) (B) (C) (D) に入る用語はどれか。「1970年代には、それまで売上高トップの (A)を (B)が抜き、 (C)などの (D)が急速にその勢力を伸ばしてきました。」			3	6	1																																																																													
	(A)ダイエー (B) セブンイレブン (C) コンビニ エンスストア (D) フランチャイズ・チェーン	(A)ダイエー (B)イオン (C) 日本型スーパー ストア (D) ショッピングセンター	(A)三越百貨店 (B)ダイエー (C) スーパーマ ーケット (D) チェーンストア																																																																																
2	次の文の (A) (B) (C) (D) に入る用語はどれか。「販売機会を逃す (A) を防ぐためには、十分な数量を (B)しておく必要があります。しかし、同時に (C) (B)で、 (D)や廃棄処分にならないように注意しなくてはなりません。」			3	11	1																																																																													
	(A)欠品 (B)在庫 (C)過剰な (D)値上げ	(A)発注の不備 (B)保管 (C)過少な (D)返品	(A)欠品 (B)在庫 (C)過剰な (D)値引き																																																																																
3	小売業の二つの特徴は何か。			2	19	1																																																																													
	すべてセルフサービス方式の販売方法をとっていること 販売価格は商品そのものに示されていること	売場が不特定多数の人が自由に入退場できること 様々な商品を販売していること	商品の価格は決まっていて、どの店に行っても同じ 商品は同じ価格であること ロスの原因は、売場 でのみ存在すること																																																																																
4	売場販売効率とスペース生産性の説明について正しいものはどれか。			2	23	1																																																																													
	売場販売効率とは売場または店舗1坪あたりの粗利 益高であり、できるだけ高くすることが望ましく、 売場販売効率を高めるためには売場面積を小さく することが望ましい	売場販売効率とは売場または店舗1坪あたりの売上 高で、またスペース生産性は陳列スペース当たり の売上総利益すなわち粗利益高のことである	売場販売効率とは売場または店舗1坪あたりの粗利 益高で、またスペース生産性は陳列スペース当た りの売上高のことである																																																																																
5	以下の表の空欄に入る数値はどれか。(小数点第二位四捨五入)			1	26	3																																																																													
	62.7%	71.0%	64.8%																																																																																
	<table><tr><th>項目</th><th>数値</th></tr><tr><td>期首在庫額 (原価)</td><td>900</td></tr><tr><td>期中仕入額 (原価)</td><td>6,000</td></tr><tr><td>期中売上高 (売価)</td><td>10,000</td></tr><tr><td>期末在庫額 (売価)</td><td>1,000</td></tr><tr><td>期中売上高 (原価)</td><td></td></tr><tr><td>期中原価率</td><td></td></tr><tr><td>粗利益高</td><td></td></tr><tr><td>粗利益率</td><td></td></tr></table>	項目	数値	期首在庫額 (原価)	900	期中仕入額 (原価)	6,000	期中売上高 (売価)	10,000	期末在庫額 (売価)	1,000	期中売上高 (原価)		期中原価率		粗利益高		粗利益率		原価率= {期首在庫額 (原価) + 期中仕入額 (原価)} ÷ {売上高 + 期末棚卸額 (売価)} (900+6000) ÷ (10000+1000)=0.6272 答え62.7%																																																															
項目	数値																																																																																		
期首在庫額 (原価)	900																																																																																		
期中仕入額 (原価)	6,000																																																																																		
期中売上高 (売価)	10,000																																																																																		
期末在庫額 (売価)	1,000																																																																																		
期中売上高 (原価)																																																																																			
期中原価率																																																																																			
粗利益高																																																																																			
粗利益率																																																																																			
6	不明ロス率を求めるために必要な数値はどれか。			3	31	1																																																																													
	あるべき在庫高 (原価)	粗利益高	あるべき在庫高 (売価)																																																																																
7	ロスはいくつの特徴を持つ特殊なコストといえる。次のなかで誤っている説明はどれか。			3	32	1																																																																													
	企業が自らの意思で支出したコストではない	大部分のロスは発生した時点ではわからず、実地 棚卸によって在庫数量を確定し、評価しないと判 明しない	ロスを削減できれば、削減した分が直接売上に貢 献できる																																																																																
8	現状、売上高が10億円で営業利益高が5千万円、ロス率が1.5%である。これを0.2ポイント削減し、ロス率を1.3%にすることで得られる営業利益高と、ロス率は変わらずに、同じだけの営業利益高を得るために売上高はいくら増やす必要があるか。ただし販売管理費比率や値入率は変わらないものとする。(この問題は、改善されたロス率が同じ率だけ営業利益率を改善するという前提に立っている。厳密には売上原価への影響は売価で求めたロスではなく換算された原価であるため、実際にはここで求めた数値と同じにはならない)			1	34	3																																																																													
	4千万円	5千万円	6千万円																																																																																
9	日本リテイリングセンターの調査によれば不明ロスの原因推定の実施状況は、あまり芳しくない。実際に調査し推定している企業の比率はどのくらいか			2	46	1																																																																													
	3-5割程度	3割以下	5割以上																																																																																
10	次の文の空欄 (A) (B) (C)に入るものはどれか。「これらのミスによる不明ロスを実際に明らかにするには、実地棚卸が必要です。棚卸とは英語表記では、在庫を数えること (A)、実際の在庫 (B)などがあり、帳簿上の在庫 (C)を理論在庫などと呼ぶこともあります。			1	50	1																																																																													
	(A) stocktaking (B) physical inventory (C) book inventory	(A) stockcounting (B) inventory inspection (C) physical inventory	(A) book inventory (B) real inventory (C) theoretical inventory																																																																																
11	次の文の空欄 (A) (B) (C)に入るものはどれか。「商品管理の (A)が決められた手順で確実に実施されるための予防処置には (A) 管理が必要です。第一に手順が明確に定められており、 (B)されていなくてはなりません。つまり手順書もしくは (C)が整備されているということです。」			3	52	1																																																																													
	(A) プロセス (B) 図式化 (C) 就業規則	(A) 作業 (B) マニュアル化 (C) 管理方法	(A) プロセス (B) 明文化 (C) マニュアル																																																																																
12	実地棚卸に誤りがあると正しい粗利益や不明ロスが得られない。またその誤りは次の期の数値にも影響を与える。前期に棚卸に誤りがあり在庫高 (売価) が30だけ漏れてしまった。前期期末の棚卸の誤りが、今期における粗利益と不明ロスにどのような影響を与えるか。前期の棚卸が誤っていた場合と正しく行われていた場合の、今期の粗利益率と不明ロス率の差はいくらか。(粗利益率は小数点第二位四捨五入、ロス率は小数点第三位四捨五入)			3	58	3																																																																													
	今期の粗利益率は1.5ポイント高くなり、ロス率は1.00ポイント%低くなる	今期の粗利益率は0.5ポイント高くなり、ロス率は0.40ポイント%低くなる	今期の粗利益率は0.4ポイント高くなり、ロス率は1.20ポイント低くなる																																																																																
<table><tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">前期</th><th colspan="2">今期</th><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr><tr><th>正しい</th><th>間違い</th><th>正しい</th><th>間違い</th></tr><tr><td>期首在庫高 (原価)</td><td>1,000</td><td>1,000</td><td></td><td></td><td rowspan="2">まず、今期の期首在庫 (原価) を求める。 正しい場合の期首在庫 (原価) =1300×72.9%=947.7 (四捨五入して948) 間違いの場合の、期首在庫 (原価) =1270×0.735=933.4 (四捨五入して933) 粗利益率を求める 正しい場合の粗利益率=1- {(948+1950) ÷ (2500+1260)} =0.2292 (四捨五入して22.9%) 間違いの場合の粗利益率=1- {(933+1950) ÷ (2500+1260)} =0.2332 (四捨五入して23.3%) 23.3%-22.9%=0.4point その差0.4ポイント</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>期首在庫高 (売価)</td><td>1,350</td><td>1,350</td><td>1,300</td><td>1,270</td></tr><tr><td>期中仕入高 (原価)</td><td>1,770</td><td>1,770</td><td>1,950</td><td>1,950</td><td rowspan="2">正しい場合のロス高 1300+2500-2500-1260=40 ロス率 40/2500=0.016 (1.60%) 間違いの場合のロス高 1270+2500-2500-1260=10 ロス率 10/2500=0.004 (0.40%) 1.60%-0.40%=1.20point その差1.20ポイント</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>期中仕入高 (売価)</td><td>2,480</td><td>2,480</td><td>2,500</td><td>2,500</td></tr><tr><td>期中売上高 (売価)</td><td>2,500</td><td>2,500</td><td>2,500</td><td>2,500</td><td></td><td></td></tr><tr><td>期末在庫高 (売価)</td><td>1,300</td><td>1,270</td><td>1,260</td><td>1,260</td><td></td><td></td></tr><tr><td>粗利益高</td><td>678</td><td>663</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>粗利益率</td><td>27.1%</td><td>26.5%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ロス高</td><td>30</td><td>60</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ロス率</td><td>1.20%</td><td>2.40%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							項目	前期		今期				正しい	間違い	正しい	間違い	期首在庫高 (原価)	1,000	1,000			まず、今期の期首在庫 (原価) を求める。 正しい場合の期首在庫 (原価) =1300×72.9%=947.7 (四捨五入して948) 間違いの場合の、期首在庫 (原価) =1270×0.735=933.4 (四捨五入して933) 粗利益率を求める 正しい場合の粗利益率=1- {(948+1950) ÷ (2500+1260)} =0.2292 (四捨五入して22.9%) 間違いの場合の粗利益率=1- {(933+1950) ÷ (2500+1260)} =0.2332 (四捨五入して23.3%) 23.3%-22.9%=0.4point その差0.4ポイント		期首在庫高 (売価)	1,350	1,350	1,300	1,270	期中仕入高 (原価)	1,770	1,770	1,950	1,950	正しい場合のロス高 1300+2500-2500-1260=40 ロス率 40/2500=0.016 (1.60%) 間違いの場合のロス高 1270+2500-2500-1260=10 ロス率 10/2500=0.004 (0.40%) 1.60%-0.40%=1.20point その差1.20ポイント		期中仕入高 (売価)	2,480	2,480	2,500	2,500	期中売上高 (売価)	2,500	2,500	2,500	2,500			期末在庫高 (売価)	1,300	1,270	1,260	1,260			粗利益高	678	663					粗利益率	27.1%	26.5%					ロス高	30	60					ロス率	1.20%	2.40%				
項目	前期		今期																																																																																
	正しい	間違い	正しい	間違い																																																																															
期首在庫高 (原価)	1,000	1,000			まず、今期の期首在庫 (原価) を求める。 正しい場合の期首在庫 (原価) =1300×72.9%=947.7 (四捨五入して948) 間違いの場合の、期首在庫 (原価) =1270×0.735=933.4 (四捨五入して933) 粗利益率を求める 正しい場合の粗利益率=1- {(948+1950) ÷ (2500+1260)} =0.2292 (四捨五入して22.9%) 間違いの場合の粗利益率=1- {(933+1950) ÷ (2500+1260)} =0.2332 (四捨五入して23.3%) 23.3%-22.9%=0.4point その差0.4ポイント																																																																														
期首在庫高 (売価)	1,350	1,350	1,300	1,270																																																																															
期中仕入高 (原価)	1,770	1,770	1,950	1,950	正しい場合のロス高 1300+2500-2500-1260=40 ロス率 40/2500=0.016 (1.60%) 間違いの場合のロス高 1270+2500-2500-1260=10 ロス率 10/2500=0.004 (0.40%) 1.60%-0.40%=1.20point その差1.20ポイント																																																																														
期中仕入高 (売価)	2,480	2,480	2,500	2,500																																																																															
期中売上高 (売価)	2,500	2,500	2,500	2,500																																																																															
期末在庫高 (売価)	1,300	1,270	1,260	1,260																																																																															
粗利益高	678	663																																																																																	
粗利益率	27.1%	26.5%																																																																																	
ロス高	30	60																																																																																	
ロス率	1.20%	2.40%																																																																																	